

# 令和4年度地域運動部活動推進事業

## 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書

自治体名	静岡市教育委員会 担当課：学校教育課 電話番号：054-354-2521
------	---

### 1. 事業の概要について

#### 1.1 基本情報（令和4年度4月末時点）

① 中学校数	43校	② 生徒数	14,564人	③ 部活動数	430部活
--------	-----	-------	---------	--------	-------

#### 1.2 地域における現状・課題

本市では、少子化や価値観の多様化に伴い、部員数が年間約300人程度減少し、適正な活動の維持が難しい部活動や廃部を検討している部活動が年々増加している。また教員数の減少に加え、専門外の部活動で指導を担っている教員が約50%、休日指導に負担を感じている教員が約52%と、教員の負担も増大し、現在の仕組みでは生徒、教員にとって有意義で持続可能な部活動の運営が難しい状況にある。

#### 1.3 実践研究における取組目標「持続可能で健全な地域展開モデル（シズカツ）の構築」

子どもたちが学校規模や家庭状況に左右されず、仲間とともにスポーツ・文化芸術に「親しみ・楽しみ・挑戦」できる健全な活動を保障するため、本事業の目指す姿を明確にした上で、休日モデルの作成について試行検証する

#### 1.4 実践研究の運営体制

部員確保など少子化への対応、選択肢の確保として、エリア制は有効な手段であった。

休日の活動を学校管理外とし、運営団体のもとで運営とし、教員の兼業申請を整理し「指導員」として登録し指導を行った。



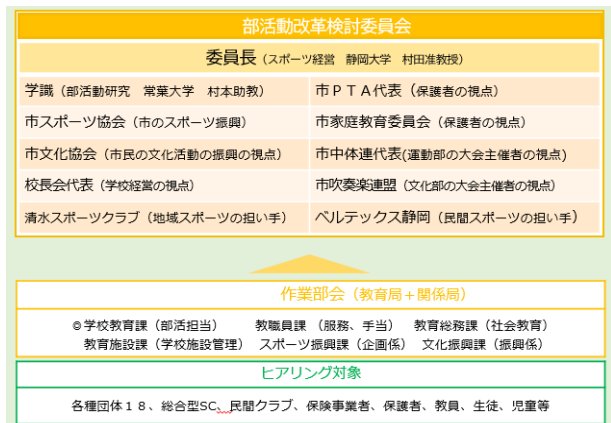
	ソフトボール	野球
拠点校	長田南中（長田西中）	竜爪中（西奈中）
運営団体	市PTA	静岡市野球連盟
指導員	①兼業教員（長南顧問） ②地域人材（外部指導員）	①兼業教員（竜爪顧問） ②兼業教員（西奈顧問）
内容	・指導者の登録 ・指導者への謝金払い	・実績簿の作成 ・委託金の管理

### 2. 地域連携や地域移行の推進に向けた体制整備の取組について

本市における部活動改革の方向性及びそれを実現するための方策や移行期の準備等に関して、関係者を交えた検討が必要となるため、改革検討委員会を設置。

静岡市の实情にあったモデル構築に向けた検討事項について、委員の皆様からの意見や関係団体からのヒアリングを経て、本市の部活動改革の方向性を作成した。

作成した案については、市総合教育会議（8月と11月予定）において議題として取り上げ市の事業として位置づけられた。



### 3. 実践研究校における取組について

#### 3.1 実践研究校情報

① 実践研究校数	域内全43中学校のうち、4校が実践研究に参加
② 実践研究に取り組んだ部活動数	2部活（拠点校方式の合同部活動も兼ねているため、関係校は4校）
③ 種目	野球、ソフトボール

#### ≪主な取組例（1）≫…静岡市立竜爪中学校

① 運営主体	静岡市野球連盟		
② 種目	野球	④ 参加者数	17人
④ 活動日	原則、休日どちらか一日	⑤ 活動場所	竜爪中、西奈中
⑦ 指導者人数	2人	⑧ 謝金単価	1人あたり1,600円/時間

⑨ 指導者属性	市野球連盟に所属の兼業教員 2 名を指導者として派遣
⑩ 参加会費の有無・金額	なし

《主な取組例（2）》…静岡市立長田南中学校

① 運営主体	静岡市 PTA 連絡協議会		
② 種目	ソフトボール	④ 参加者数	14 人
④ 活動日	原則、休日どちらか一日	⑤ 活動場所	長田南中
⑦ 指導者人数	2 人	⑧ 謝金単価	1 人あたり 1,600 円/時間
⑨ 指導者属性	兼業教員 1 名と部活動指導員 1 名を指導者として派遣		
⑩ 参加会費の有無・金額	なし		

3.2 参加者の声（生徒、保護者、教師、指導者等）

【生徒】 ○専門性ある指導者が必ず土日は来てくれる。課題をはっきり言ってくれる。

- 複数体制によりそれぞれの指導者が見て足りないところを指摘してくれてわかりやすい。たくさん教えてもらえる。
- 他の学校の人とサッカーをやるから楽しい。友達が増えた。いろんな練習や先輩との紅白戦ができる。
- たまにどの指導者の意見を聞けばいいか迷う。移動に負担がかかっている（親に）
- 他校がないときの回転率が悪い。平日は一緒にできない。

【指導者】○複数の指導体制のため指導で困っていることやわからないことを指導者同士で互いに相談できる

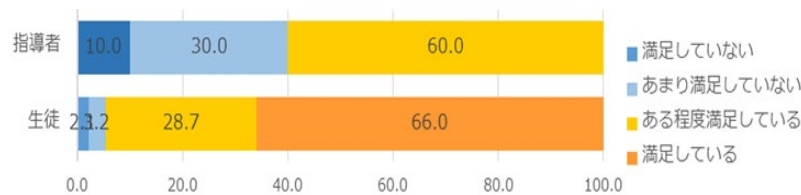
- 他校の生徒とつながりを持ち、人間関係をつくるために大切なきっかけをいただいた。
- 自分の経験を生かして専門的な指導をしながら働くことができ、生徒たちに質の高い内容を伝えることができた。
- 踏み込んだ生活指導がしにくい。平日と休日の指導にずれが生じないように一貫性をもつようにする必要がある。
- 休日 3 時間だけなのでコミュニケーションの不足。保護者との連絡体制の確立に苦労した。

3.3 各実践研究校での取組を通じて挙げた課題や解決方法、取組において特に工夫した点

単に指導者を派遣し、指導者に任せきりする運営体制でなく、従来の学校が行っていた保護者や種目間の連携などのマネジメントや指導者へのサポートなどの機能も補える運営体制の構築が必要であることがわかった。そのため、来年度の運営体制は、学校や種目間の連携、指導者の時間管理、保護者からの相談体制等を行うマネージャーや種目のエキスパートとして指導者の支援・チェックを行う種目リーダーを設置し、健全な活動を保障する体制について、検証を行う。

4. 実践研究の成果と今後の課題

4.1 実践研究での検証から得た成果



9 割を超える生徒がシズカツでの活動について満足していると答えている。一方、指導者からは連絡体制や部員や保護者とのコミュニケーション等の課題が指摘している。

4.2 地域移行における今後の課題と対応

「持続可能で健全な運営体制の構築に向けて 令和 5 年、6 年を検証期間と定め、一部先行実施」

<p>【①ガイドラインの策定】</p> <p>部活動に代わる市の教育的事業「シズカツ」における指針、行動基準を示すガイドラインを作成し、関係者への共通理解を図る。現行の部活動ガイドラインを継承しつつ、令和時代にふさわしいものとする。</p>	<p>【②官民連携による実施体制の構築】</p> <p>持続可能で健全な活動を保障する官民連携をはじめ、本市にふさわしい実施体制を構築するため、令和 5 年度も引き続き検証期間とし、団体や民間との連携方法を探る。</p>
<p>【③指導者確保のための方策（市民参画の機会拡大）】</p> <p>部活動指導員や休日の指導を希望する教員の他に、約 150 名の指導員が新たに必要と想定している。そのため中学校や小学校、スポーツ協会に加え、大学、各種目団体、部活動応援隊の加盟する地元企業など広い範囲に働きかけをしていく。</p>	<p>【④指導の質の保障（ライセンス研修と支援体制の構築）】</p> <p>市全体の指導水準、指導者の資質を担保するため、参画頂いた市民や兼業教員に対して指導員ライセンスを付与する研修と継続的に指導員を支援・助言を担う種目リーダー制度について試行検証する。</p>